

図 書 名	内 容	著 者
人権教育教材 ひらく	地域に伝わる話や教育実践の中での子どもの姿から、部落問題や奄美問題などさまざまな課題について、県同教の会員が分担して教材を自作・編集。参加型学習やなかまづくりに関する教材を加えて改訂。校種ごとに手引きもある	鹿児島県 人権・同和教育 研究協議会
教室はおもちゃばこ	人間関係づくり・集団づくりの実践を「安心ルール」「気持ち」「もちあじ」「みらいの種」の4つのキーワードで構成し、ワークシートやすすめ方を紹介した教材&実践集	沖 本 和 子
多様性教育入門 参加型人権教育の展開	参加型人権学習プログラムである多様性教育を具体的授業ガイド付きで紹介する入門テキスト。一人一人の違いを認めることから出発し、反差別や人権問題として展開するプログラムは参加型学習への疑問に答え、人権教育へと導く。	大阪多様性教育 ネットワーク・ 森 実
多様性の学級づくり 人権教育アクティビティ	「違い」「差別」につながってしまいやすい現実を学び、差別を見抜いてなくすようにとりくむ多様性教育(反差別の教育)の考え方や具体的なすすめ方、資料、ワークシートなどを掲載	大阪多様性教育 ネットワーク・ 森 実
「いまだんなきもち？」 実践のススメ	「授業づくりは子どもの気持ちをわかることから・・・」「子どもたちのつながりはたがいの気持ちを知り、感じ、尊重することから・・・」。教材「今だんなきもち？」(大阪府人教)の実践例を紹介	沖 本 和 子
自尊感情が育つ元気教室	自尊感情の形成に金はかからない。学校ではこれの集団的な形成が可能なのだ。学習意欲と人権感覚の源泉である自尊感情を育むための一助として、48のコラムで編集	園 田 雅 春
道徳科の「授業革命」	困難な状況の子どもが自尊感情を育み仲間と共に輝いているのか。特に「道徳科」では生活を見つめ本音が語られてこそ授業が成立する。人権を基軸とした授業内容と展開について解説	園 田 雅 春
スポーツ・部活動と人権教育	スポーツにおいても差別や人権について学ぶ機会が多い。部活動の中でこうした学びにとりくむことで部活動と人権教育を結ぶことができる。そのための教材づくりのきっかけに！	全国人権教育 研究協議会
じんけん スキルブック	人権について主体的に学び、具体的な生活場面と関連づけながら問題解決のスキル(技能)を育てるために、ライフステージに応じてすぐに活用できる内容で手法を紹介	兵庫県人権教育 研究協議会
じんけん スキルブック Ⅲ	同和問題をはじめさまざまな人権問題の学習にすぐにとりくめるよう、その内容や具体的な方法、資料、ワークシートなどを掲載	兵庫県人権教育 研究協議会
教科書から「土農工商が消えた」 ～部落問題歴史記述の変遷とその意味～	教科書の部落問題に関する記述について、その変遷がなぜ、どのように行われたか。身分制の捉え方や百姓・町人に関する記述についても学び直す	長崎人権研究所
はじめてみよう！ これからの部落問題学習 小学校、中学校、高校のプログラム	部落問題学習を始めるにあたっての基礎知識を概説し、実践記録をもとにした小・中・高別のプログラムを提起。「どこに部落があるの？」との質問にどう答えるか」など学校現場の疑問にもQ&A形式のコラムで答え、部落問題学習の実践をすすめる	ひょうご部落解放・人権研究所
部落問題学習の授業ネタ	部落に対する誤った情報が語り継がれていくことを断ち切り部落差別をしない子どもを育てるために、授業のなかで自分を見つめ身のまわりを見つめる作業をしていくための授業ネタ。「5歳から18歳でやってみよう」と結婚差別、社会科日本史、絵本の3テーマからネタと授業略案を掲載	部落問題学習 ネタをつくろう会
部落問題学習の授業ネタ 2	民衆史と部落史研究の成果を反映させ、日本史を学ぶ中で身のまわりの行動化につなげるための授業ネタと略案。コラムや資料も教材化することで、多くの子どもたちとともに教師も部落史をはじめ日本史に対する興味関心がふくらむ	部落問題学習 ネタをつくろう会
やってみよう！ 人権・部落問題プログラム	人権学習が“人ごと”から“我がごと”になるよう、人権学習によって人権問題と自らののかかわりに気づき、人権尊重のために自らが行動することをめざすプログラム	大阪府人権協会
色覚問題と人権～一問一答～	「色覚特性」とは何か。色覚問題を当事者という立場から、これまでかかわってきた経験と知識に基づいて、人権の視点で考える	尾 家 宏 明 伊 藤 善 規
はじめて色覚にであう本 色っているいろ	小学4年生が5分程度で読めるマンガで構成、色覚についてプラスイメージで出会い、人権の視点から正しく学ぶ。保護者宛の説明もあり親子で共同学習できる(手引き別売)	しきかく学習 カラーメイト
(絵本)あの子	差別意識や偏見がどのように広がっていくのかを、日常交わされる短い会話と絵でわかりやすく表現。年齢を問わず、無意識のうちに陥りがちな差別の構造とそれを克服する術を考える	ひぐち ともこ
世界で一番幸せな子どもたち オランダの保育	ユニセフの Well-Being 調査で世界一になったオランダでは、物質的満足度、家族や友だちとの関係、健康と安全、教育の機会など…子どもの生活にかかわるあらゆる面で子どもが居心地よく感じているという。幼児教育・保育を中心に、わたしたちが学ぶべき姿を解き明かす	辻 井 正
子どもの自尊と自律を育てる 保育環境	保育の現場がますます複雑化する現在、見える保育、分かりやすい保育を念頭に、子どもの豊かな自尊感情に根ざした自律性を育てるために、カルク博士(オランダ)を中心に開発したピラミッド・メソッド理論についてわかりやすく解説した	辻 井 正
アクティブ・ラーニング プロジェクト法	幸せの国オランダの子どもたちが自ら考える生きる力の基礎を身につけるアクティブ・ラーニングの一つである「プロジェクト幼児教育法」について、小学校との連帯を視野に入れた質の高い幼児教育法を具体的にやさしく手ほどきした<理論編>	辻 井 正
続 アクティブ・ラーニング プロジェクト法【実践編】	学びの質を深めるために、幼児・児童・生徒が討論やグループ活動を通して課題を発見、解決する学習法は「アクティブ・ラーニング」といわれ、これを文科省が2020年から導入を決定している。上記の<実践編>	辻 井 正